当院におけるがんゲノム遺伝子検査の実際

◎橘田 明音[1)]、畑毛 一枝[1)]、坂井 大介[1)]
国立大学法人 大阪大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター[1)]

【はじめに】
がんゲノム遺伝子パネル検査として，
2019 年 6 月に FoundationOne®CDx がんゲノムプロファイル（以下 F1CDx）および OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム（以下 NOP）が，2021 年 8 月に FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイル（以下 F1 LIQ）が保険収載された．当院はがんゲノム医療中核拠点病院としての指定を受け，これらの遺伝子パネル検査の実施やエキスパートパネルの開催を行っている．今回，当院における遺伝子パネル検査の実施状況を検討した．
【方法】
2019 年 9 月から 2021 年 11 月までに当院にて実施した遺伝子パネル検査について，後方視的に検討した．
また，解析できなかった検体や再出検を要した検体についてもあわせて，その詳細について検討した．
【結果】
当院での遺伝子パネル検査の出検総数は 576 件（F1CDx 551 件、NOP 18 件、F1LIQ 7 件）であり，検査中止症例は計 87 件（再出検 41 件を含む）であった．
出検数が上位のがん種は，大腸癌，膵癌，卵巣癌，乳癌であった．
検査受付から担当医師へのレポート返却までの Turnaroundtime（TAT）中央値は、54 日を要した．
（F1CDx　54 日，NOP　64 日，F1LIQ　32 日であった．）
TAT に影響しうる要因として，同意取得から出検までの期間の短縮が必要とされる．
本発表では，診療科別出検数，がん種別出件数，　解析不可検体や解析不可による再出検数等についても詳細に報告する．
【考察】
検査の効率化のためには出検までのプロセスの改善が今後求められる．

大阪大学医学部附属病院
がんゲノム医療センター（06-6879-5613）